【豊浦町】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申に「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が記述され、当町においてもデジタルドリルやクラウドツールを活用して「ICTを活用した教育の推進」を行っている。

今後も「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るとともに、児童生徒が自分自身の現状を把握し、次の学びを決定していける「主体的な学習者」の育成を目指していく。

２．GIGA第１期の総括

GIGAスクール構想推進においては、新型コロナウイルスの影響により、段階的に導入予定だった「１人１台端末」の整備が前倒しとなり、当町においては、令和３年１月に小中学校全児童生徒へタブレットが配布され「教育現場におけるICT化」が急速に進んだ。

端末導入時の取り組みとして、タブレット配布後、円滑に活用を進めるため、各学校の教員及や民間事業者からの協力を得て、「豊浦町ICT教育プロジェクトチーム」を立ち上げた。

本プロジェクトチームは、導入後の管理・運用のサポートを目的としており、Googleアプリ活用に係る研修の実施や、学習支援ソフト等の選定、そのほかセキュリティに関する運用面での懸念事項等の協議を行い、一定の成果を得ることができた。

現在ではタブレットの利用を前提とした学習計画、ICT環境整備が進んでおり、授業にはタブレットが必要不可欠なものとなった。また、家庭への持ち帰り学習を本格実施や放課後こども教室での活用など、学校以外においても日常的な利活用が進んでいる。

利用状況から判明した課題として、児童生徒が利用する端末の落下等による破損が生じ一時的に予備機が不足するなどの状況が発生するため、タブレットの利用方法については今後も引き続き適切な指導を行う。

３．１人１台端末の利活用方策

１人１台端末の利活用にあたっては、文部科学省で示されている「教育ＤＸに係る当面のＫＰＩ」の達成を目指し取り組んでいく。これらの取り組みを実現するためには、１人１台端末は必要不可欠であり、安定した端末の整備及び更新により１人１台端末環境を維持していく。

① １人１台端末の積極的活用

持ち帰り学習等の積極的な取り組みを継続するとともに、授業で活用しやすいアプリケーションの導入やガイドラインに基づく生成AIの活用についても順次検討する。

② 個別最適・協働的な学びの充実

学習支援ソフト「ドリルパーク」やGoogle Workspaceを活用することで、授業内外での「個別最適な学び」と「協働的な学びの充実」を図ることができた。今後もさらに充実を図るため、試行錯誤を行い活用の幅を広げていく。

③ 学びの保障

不登校児童生徒や外国人児童生徒など、さまざまな状況の児童生徒に対して、学習機会の確保を行っていくため、端末の活用方法の周知徹底はもとより、学校における教員のICT活用をサポートしていく。